

小学校教員養成課程における教科指導力の育成

伊藤 孝子
Takako ITO

抄録：

教科指導力のある教員の育成は喫緊の課題であり、教員養成校においては、教科指導における実践的指導力をもった教員の育成が求められている。新学習指導要領では新たに各教科等で育みたい資質・能力が示され、家庭科では、「実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成すること」と明示された。

大きく変化し続ける社会に生きる子どもたちの将来を見据え、子どもたちの自立に向けて必要な知識や技能を考えたとき、小学校家庭科では「衣生活」における「ボタン付け」は子どもたちに確実に身に付けさせたい技能である。

小学校家庭科における教科指導力を育成するに当たり、「衣生活」の学習では、実践的・体験的な活動の充実、個に応じた指導の充実、家庭・地域との連携の視点から、授業改善を一層進める必要があると考える。

キーワード： 教科指導力 小学校家庭科 衣生活 基礎的・基本的な知識及び技能

I. はじめに

平成 29 年 3 月、新学習指導要領が告示され、小学校では令和 2 年度から全面実施される。今回の学習指導要領は、平成 28 年 12 月 21 日に出された中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」を踏まえて改訂された。その答申には「本答申は、2030 年の社会と、そして更にその先の豊かな未来において、一人一人の子供たちが、自分の価値を認識するとともに、相手の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、よりよい人生とよりよい社会を築いていくために、教育課程を通じて初等中等教育が果たすべき役割を示すことを意図している。」¹ とあり、今回の新学習指導要領が、2030 年の社会とその先の未来を想定して、子どもたちに付けたい資質・能力を示したことは周知のことである。現在、国が進めている Society 5.0 の社会を生きる子どもたち一人一人が、人間らしく豊かに生きていくためにどのような力が必要かを考えたとき、日々の暮らしそのものを学習する家庭科の役割は極めて大きい。

本稿では、小学校家庭科における教科指導力を育成するに当たり、新学習指導要領の改訂を踏まえながら、Society 5.0 の社会を生きる子どもたちに、小学校家庭科の学習で身に付けたい力について述べたい。

II. 小学校学習指導要領家庭科の改訂

1. 改訂の趣旨

『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 家庭編』（平成 29 年 7 月）において、小学校家庭科の「改訂の趣旨」は以下のように示されている。

中央教育審議会答申において、学習指導要領等改訂の基本的な方向性が示されるとともに、各教科等における改訂の具体的な方向性も示されている。今回の小学校家庭科の改訂は、これらを踏まえて行われたものである。

答申の中で、小学校家庭科の内容の見直しについては、次のように述べられている。

ア 平成 20 年改訂の学習指導要領の成果と課題を踏まえた家庭科、技術・家庭科の目標の在り方

家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、児童生徒の学習への関心や有用感が高いなどの成果が見られる。一方、家庭生活や社会環境の変化によって家庭や地域の教育機能の低下等も指摘される中、家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々に関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。また、家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。

表 1 小学校家庭科授業時数の変遷³
(年間授業時数)

改訂年	第 5 学年	第 6 学年
昭和 2 2 年	1 0 5	1 0 5
昭和 3 3 年	7 0	7 0
昭和 4 3 年	7 0	7 0
昭和 5 2 年	7 0	7 0
平成元年	7 0	7 0
平成 1 0 年	6 0	5 5
平成 2 0 年	6 0	5 5
平成 2 9 年	6 0	5 5

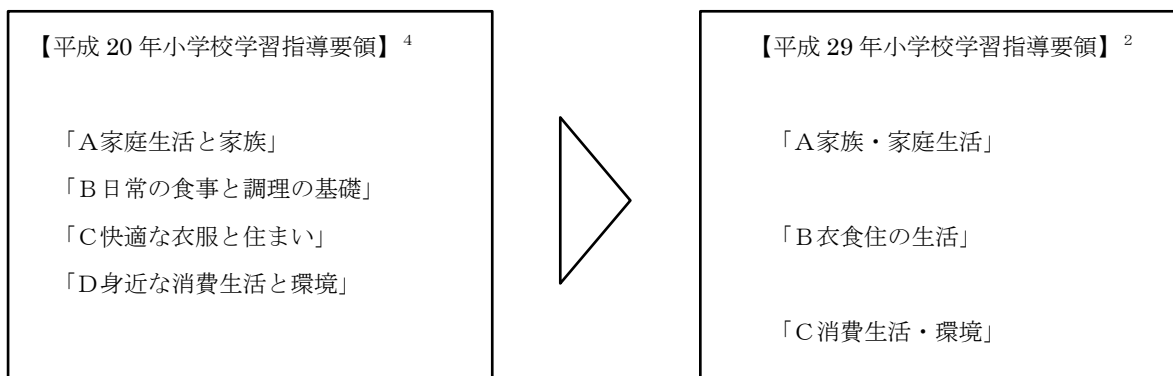
中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部
会第 56 回配付資料「小学校における各教科等の授業
時数等の変遷」より作成

資質・能力については、実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中から問題を見いだして課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成することを基本的な考え方とする。²

ここでは、「家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要である」と記されているが、家庭科の授業時数は、平成 10 年以降減少し、小学校 6 年生では週あたり 1.57 時間となっている（表 1）。

2. 内容構成の基本的な考え方と改善（4 内容から 3 内容へ）

小・中・高等学校の内容の系統性を明確にし、小・中・高等学校の各内容の接続が見えるように、小・中学校においては、内容構成は、「A 家庭生活と家族」「B 日常の食事と調理の基礎」「C 快適な衣服と住まい」「D 身近な消費生活と環境」の 4 つの内容から「A 家族・家族生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の 3 つの内容に改善された。



この内容の改善により、「空間軸と時間軸の視点から学校段階別に学習対象を整理」し、「小学校における空間軸の視点は、主に自己と家庭、時間軸の視点は、現在及びこれまでの生活」²と明確になった。このことから、中学校・高等学校への系統性と中学校への接続を見通した学習内容の整理が一層進み、小学校の学習に求められる基礎的・基本的な知識及び技能や、生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度が着実に育まれることを目指している。

そして、今回の改訂では、内容の改善として、「ウ 社会の変化への対応」で次の 4 点の内容の充実が示された。

- 家族・家庭生活に関する内容の充実
- 食育の推進に関する内容の充実
- 日本の生活文化に関する内容の充実
- 自立した消費者の育成に関する内容の充実

このように、「家庭生活」「食生活」「消費生活」等の分野の学習内容が強化されたが、「衣生活」においては、中学校との内容の系統性を図る観点から「生活を豊かにするための布を用いた製作」とするなどの変更に残っている（表 2）。

表 2：平成 29 年と平成 20 年改訂の小学校学習指導要領家庭科の比較

平成 29 年改訂	平成 20 年改訂
B 衣食住の生活	C 快適な衣服と住まい
(4) 衣服の着用と手入れ ア(ア)衣服の主な働き、日常着の快適な着方 イ 日常着の手入れ、ボタン付け及び洗濯の仕方 イ 日常着の快適な着方や手入れの工夫	(1) 衣服の着用と手入れ ア衣服の働きと快適な着方の工夫 イ日常着の手入れとボタン付け及び洗濯
(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ア(ア)製作に必要な材料や手順、製作計画 イ 手縫いやミシン縫いによる縫い方、用具の安全な取扱い イ 生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画及び製作の工夫	(2) 快適な住まい方 ア住まい方への関心、整理・整頓及び清掃の仕方と工夫 イ季節の変化に合わせた生活の大切さ、快適な住まい方の工夫
(6) 快適な住まい方 ア(ア)住まいの主な働き、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方 イ 住まいの整理・整頓や清掃の仕方 イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方の工夫	(3) 生活に役立つ物の製作 ア形などの工夫と製作計画 イ手縫いやミシン縫いによる製作・活用 ウ用具の安全な取扱い

3. 小学校家庭科で育みたい資質・能力

今回の改訂で、新たに各教科等で育みたい資質・能力が示され、家庭科では、「実践的・体験的な学習活動を通して、家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けるとともに、生活の中か

ら問題を見いだして課題を設定し、それを解決する力や、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度等を育成すること」²と示された。

つまり、小学校家庭科では、「生活の中から問題を見いだして課題を設定し」、「家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての科学的な理解を図り、それらに係る技能を身に付け」ることが求められている。この生活の中から課題を設定したり、科学的な理解や確実な技能の定着を図ったりすることは、教師が一方的に内容を教えることよりも時間を要する。しかし、家庭科の授業時数は減少しており（表1）、教師は学習指導を工夫しなければ、学習指導要領で定められた内容を標準時数で教えることは難しい。そのため、子どもの実態に応じて学習内容を精選し、子どものありのままの暮らしから課題を発見し、より豊かな暮らしへと高められるようにすること、学習したことが子どもの日常生活に役立つことが求められる。

家庭科の学びは小学校で完結するものではなく、中学校、高等学校へと続くものである。子どもたちが家庭科という教科に初めて出会う小学校では、子どもたちの将来を考え、子どもたちが自立して生きていくために、どんな力や技能を最低限身に付けておく必要があるのか。高等学校家庭科の教員に尋ねたところ、「基本的なこととして、ボタン付けだけはできるようにしてほしい」という回答があった。

食生活や住生活は、スーパーやコンビニエンスストア、100円均一ショップ等の普及で、日常生活に必要なものが安価で手軽に手に入り、日常生活で困ることは非常に少ない。衣生活においても、衣服の裾がほつれたら裾上げテープや裾直し用ボンドなどで簡単に修理できる。しかし、衣服のボタンが取れたとき、取れたボタンを簡単に取り付ける道具は現在のところ、一般的に出回っていない。針と糸を使って、手縫いでボタンを取り付ける必要がある。ボタン付けは小学校5年生で学習し、その後の布製品の製作は、手縫いよりもミシンでの製作が中心となる。小学校5年生の基礎的・基本的な技能として、ボタン付けは、すべての子どもたちが身に付けるべき技能である。

子どもたちが、現代社会を豊かに生き抜くために必要な知識や技能は何かを考えたとき、小学校家庭科では「衣生活」における授業改善を一層進める必要があると考える。

4. 小学校家庭科教科書における「衣生活」に関する作品例の扱い

小学校家庭科の教科書は、開隆堂出版と東京書籍の2社から出版されている。

令和2年度から新学習指導要領が小学校で全面实施され、新しい教科書での学習が令和2年4月から始まる。新教科書では、「衣生活」における布製品の製作では、どんな作品を例としてあげているか、各社のHPを参考に、現行の教科書（平成27年度版）と比較した（表3・表4・表5・表6）。

東京書籍の教科書では、「学習指導要領で題材指定された『ふくろ』について、製作に関わる3つの大題材で系統性を図り、題材を構成。」（『新しい家庭5・6』東京書籍2020年度用小学校家庭教科書 内容解説パンフレット）とあり、開隆堂出版でも「ふくろ作りの計画・製作」が小題材名であがっているなど、小学校学習指導要領を受けてふくろの製作を取り扱っており、手縫いでは、平成27年度版の教科書の内容との大きな相違はないと考える。

表3：平成27年度版教科書（開隆堂出版）

題材名	製作実習題材
はじめてみようソーイング	玉結び（ぬい始め）・玉どめ（ぬい終わり）・ネームプレートをつくろう・二つ穴ボタンの付け方・手ぬいのしかた（なみぬい・本返しぬい・半返しぬい・かがりぬい）
	フェルトでつくるカード入れ
	【参考】数字のマスコット、はさみケース、ペンケース、つながるアイスクリームマスコット、ハンカチでつくるふくろ、針さし、ペットボトルキャップの針さし
わくわくミシン	ランチョンマット
	クッション
	マルチカバー
	まくらカバー
チャレンジコーナー	【例】弁当つつみ、花ふきん、ブックカバー
楽しくソーイング	マイバッグ
	ナップザック
	エプロン
	カフェエプロン
	【参考】フリルきんちゃく、大きなかばんに入れて小物の整理に役立つバッグ、湯たんぽカバー、ブックカバー、フォークやスプーン入れ

（『小学校わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂出版 平成27年2月5日発行 より作成）⁵

表4：令和2年度版教科書（開隆堂出版）

題材名	製作実習題材
ソーイング はじめの一步	【実習】小物の製作（フェルトで作るカード入れ）、活用例（ポケットティッシュカバー、ペットボトルキャップの針さし）
ミシンでソーイング	製作例（ランチョンマット、マルチカバー、クッションカバー）
チャレンジコーナー	弁当つつみ、ブックカバー
生活を豊かに ソーイング	【実習】ふくろ作りの計画・製作（例：マイバッグ、きんちゃくポーチ）

（『小学校わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂出版 2020年度用小学校家庭教科書 内容解説資料より作成）⁶

表5：平成27年度版教科書（東京書籍）

題材名	製作実習題材
ひと針に心をこめて	玉結び・玉どめ・なみぬい・本返しぬい・半返しぬい・かがりぬい・ボタン付け（2つ穴ボタン）・ワッペン
	小物入れ・三角定規入れ・ペン入れ・ポケットティッシュ入れ 【資料】手作りマグネット・名札

ミシンにトライ！手作りで楽しい生活	きんちゃくぶくろ・なべしき
	ウォールポケット
	ランチョンマット
	エプロン
思いを形に生活に役立つ布製品	弁当箱を入れるふくろ・サッカーボールを入れるふくろ
	トートバッグ
	きんちゃく
	クッションカバー
あなたは家庭や地域の宝物	マスク・かいり入れ

（『新しい家庭 5・6』東京書籍 平成 31 年 2 月 10 日発行 より作成）⁷

表 6：令和 2 年度版教科書（東京書籍）

題材名	製作実習題材
ひと針に心をこめて	フェルトを使ったワッペン、マイ・ミニバッグ など
ミシンにトライ！手作りで楽しい生活	バンダナを使ったきんちゃくぶくろ、タオルを使ったぞうきん、エプロン、ランチョンマット・ウォールポケット など
思いを形にして 生活を豊かに	トートバッグ、クッションカバー・きんちゃく など

（『新しい家庭 5・6』東京書籍 2020 年度用小学校家庭教科書 内容解説パンフレットより作成）⁸

Ⅲ. 衣生活に係る学生の実態

（1）アンケートの実施

「衣生活」の内容は、B 衣食住の生活（4）「衣服の着用と手入れ」、（5）生活を豊かにするための布を用いた製作」の 2 項目で構成されている（小学校学習指導要領解説家庭編 P.49）そして、ボタン付けに関しては、「(4) 衣服の着用と手入れ」に、「ア 次のような知識及び技能を身に付けること。（イ）日常着の手入れが必要であることや、ボタンの付け方及び洗濯の仕方を理解し、適切にできること」とあり、「題材構成に当たっては、B(5)と関連させて、ボタン付けを製作の中で取り扱ったり、(中略) することなどが考えられる」と示されており、「B(5)生活を豊かにするための布を用いた製作」と関連させて学習を構成していくことが必要である。そして、「ボタンの付け方については、衣服の打ち合わせをとめるために必要であること、また、繰り返しとめたりはずしたりするために丈夫に付けることが必要であること及びそのための付け方を理解し、適切にできるようにする」（小学校学習指導要領解説家庭編 P.51）とあり、ボタン付けが適切にできるように指導する必要がある。

そこで、小学校 5 年生で学習した、衣生活に関する内容の定着状況をアンケート形式で調査した。（調査した学生は、本学子ども学科 1・2 年生。内 64 名(87.7%)から回答を得た。調査対象の学生のほとんどは、平成 20 年告示の学習指導要

領で学習している。「衣生活」に関しては、「C 快適な衣服と住まい (1)衣服の着用と手入れ イ日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること。」と示されている)

アンケートは次の項目で実施(問1～問7は5件法で回答)し、その結果をまとめたものが図1である。

問1.玉結びが得意である

問2.玉どめが得意である

問3.なみ縫いが得意である

問4.本返し縫いが得意である

問5.半返し縫いが得意である

問6.かがり縫いが得意である

問7.ボタン付けが得意である

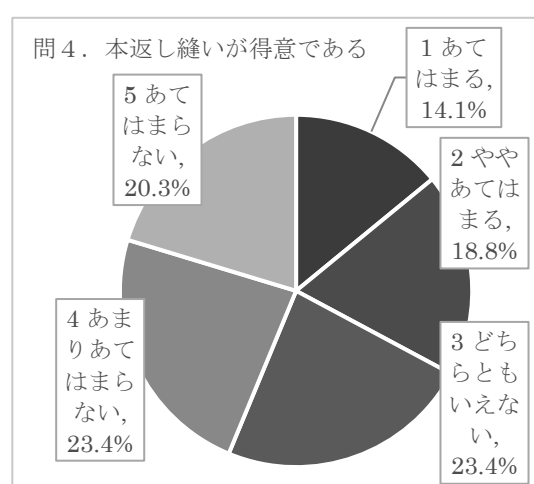
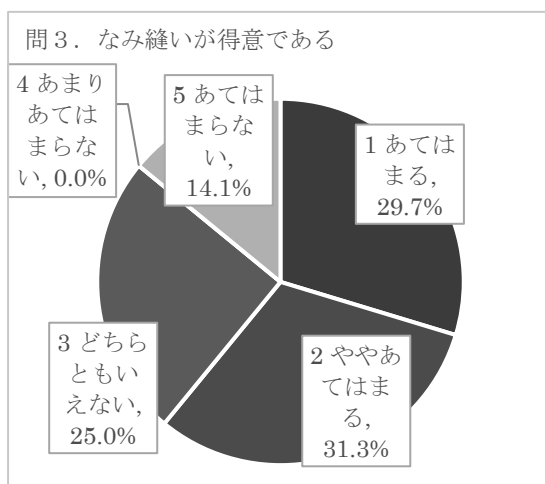
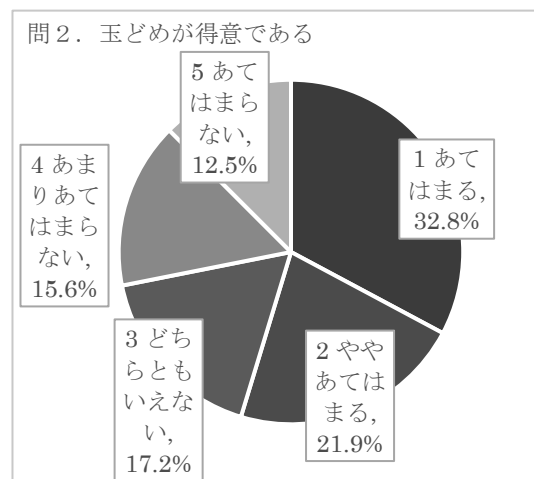
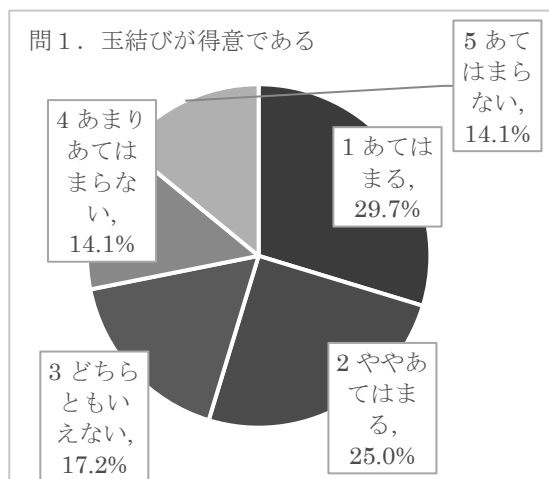
問8.あなたは、自分の洋服に次のようなトラブルがあったとき、どうしますか。(選択

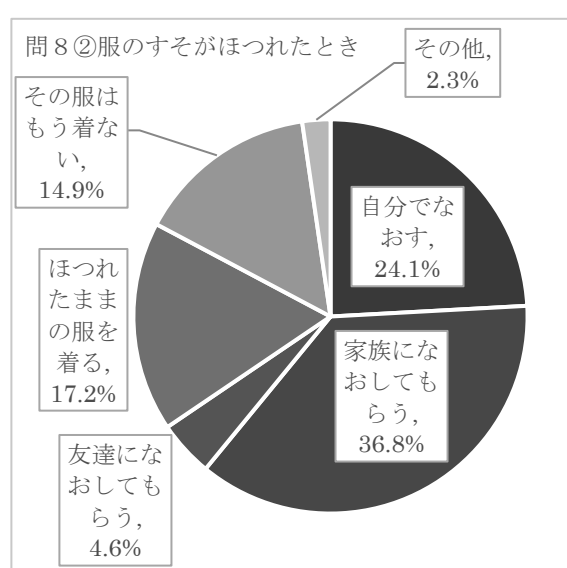
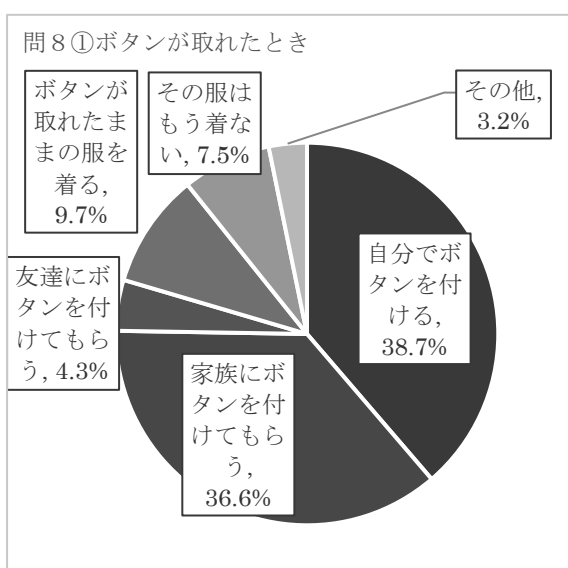
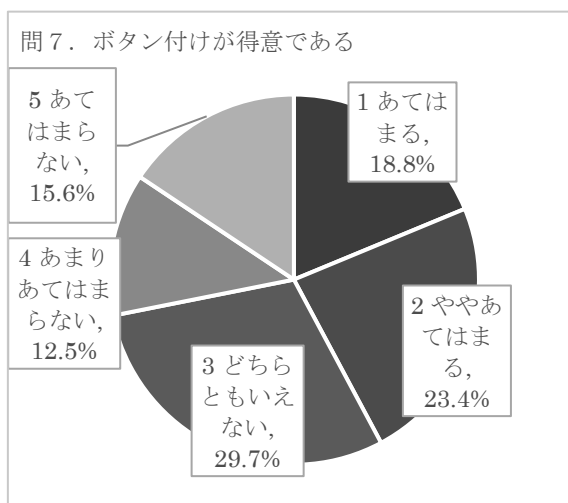
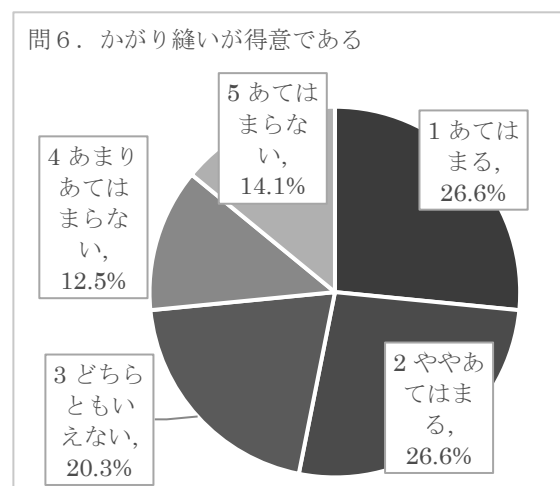
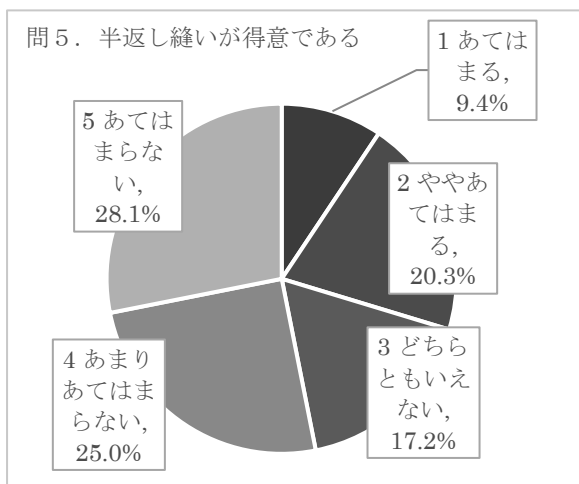
肢から選択、複数回答可)

①ボタンが取れたとき

②服の裾がほつれたとき

図1：衣生活に関するアンケート





(2) アンケート結果の考察

問1「玉結びが得意である」、問2「玉どめが得意である」、問3「なみ縫いが得意である」、問6「かがり縫いが得意である」という質問に、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生は53%～61%で、半数以上の学生は玉結びと玉どめ、なみ縫いができると考えられる。しかし、玉結び・なみ縫い・かがり縫いで14.1%、玉どめで12.5%の学生が「あてはまらない」と回答しており、玉結びや玉どめ、なみ縫い、かがり縫いが十分に身につけていない状況が伺える。

問4「本返し縫いが得意である」、問5「半返し縫いが得意である」という質問に、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答した学生は約30%で、「あてはまらない」と回答した学生は、本返し縫いで20.3%、半返し縫いで28.1%にものぼる。アンケートの際、学生から本返し縫いと半返し縫いの縫い方について質問があり、用語自体を覚えていない学生も見受けられた。

問7「ボタン付けが得意である」という質問には、「あてはまる」「ややあてはまる」と42.2%の学生が回答しているものの、15.6%の学生が「あてはまらない」と回答している。

また、問8では、「あなたは、自分の洋服に次のようなトラブルがあったとき、どうしますか。①ボタンが取れたとき、②服の裾がほつれたとき」で尋ねたところ、ボタンが取れたとき「自分でボタンを付ける」学生は38.7%、「家族や友達にボタンを付けてもらう」学生は40.9%、「ボタンが取れたままの服を着る」学生が9.7%、「その服はもう着ない」という学生も7.5%あった。

そして、服の裾がほつれたときでは、「自分でなおす」24.1%、「家族や友達になおしてもらう」41.4%、「ほつれたままの服を着る」17.2%、「その服はもう着ない」14.9%という結果であった。服のボタンが取れても服の裾がほつれても、自分でなおして着ている学生は4割に満たず、ボタンが取れたままの服を着ていたり、ほつれたままの服を着ていたりする学生も1割～2割の学生に及ぶ。さらには、「その服は着ない」と回答した学生もいて、消費生活の一端が伺える。

前述の通り、調査対象の学生が小学校で学んだ、『平成20年告示小学校学習指導要領解説家庭編』(P.47)には、「C 快適な衣服と住まい (1) 衣服の着用と手入れ イ日常着の手入れが必要であることが分かり、ボタン付けや洗濯ができること。」と示されているものの、アンケート結果を見ると、小学校家庭科での学習の定着が十分図られていなかった可能性も考えられる。その他に、手縫いやボタン付けができない原因としては、教科書の製作実習題材(表3～表6)を見ても、小学校5年生での手縫いの学習は小物作り等にとどまり、5年生からミシンによる製作が始まることや、ボタン付けを小学校5年生の学習で習得しても、その後の布製品の製作で活用する機会が少ないことなども、手縫いやボタン付けが定着していない原因の一つであろう。

そこで、子どもたちが現代社会を豊かに生き抜くために必要な基礎的・基本的な技能として、ボタン付けはすべての子どもたちが身に付けるべき技能であり、小学校家庭科「衣生活」における授業改善について考えたい。

IV. 学習指導の改善

『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 家庭編』でボタン付けに関する学習は、『衣生活』(4)『衣服の着用と手入れ』ア(イ)日常着の手入れが必要であることや、ボタンの付け方及び洗濯の仕方を理解し、適切にできること」に示されている。ボタン付けをすべての子どもたちが理解し、適切にできるようにするために「第3章 指導計画の作成と内容の取扱い 2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」の中の次の3点を授業の中で大事にして、過去の実践をもとに指導案を作成した。

- ① 実践的・体験的な活動の充実
- ② 個に応じた指導の充実
- ③ 家庭・地域との連携

第5学年 家庭科学習指導案

1. 題材名 ソーイングはじめての一步（開隆堂出版）

2. 指導によせて

（1）教材観

本題材は、小学校学習指導要領家庭科（平成27年7月）の内容C「（4）『衣服の着用と手入れ』ア 次のような知識及び技能を身に付けること。（イ） 日常着の手入れが必要であることや、ボタンの付け方及び洗濯の仕方を理解し、適切にできること。イ 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。（5）『生活を豊かにするための布を用いた製作』ア 次のような知識及び技能を身に付けること。（ア） 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。（イ） 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできること。イ 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫すること。』を受けて設定されている。

本題材は、子どもたちが裁縫道具の安全な取扱いについて理解し、「玉どめ」「玉結び」「返し縫い」「なみ縫い」「ボタン付け」などの手縫いの基礎的な技能を身に付け、生活を豊かにする物を製作することをねらいとしている。学習内容としては、製作計画、手縫いによる目的に応じた縫い方、裁縫用具の安全な取扱い方などがある。この学習を通して、子どもたちが製作する喜びや楽しさを味わい、学んだことを家庭での実践につなげていくことが大事である。

（2）児童観

私たちの衣生活は豊かで、安価で、流行にのった衣服や質の良い衣服が数多く出回っている。衣服だけでなく、様々な布製品も手軽に手に入る。既製品を買うことが中心の暮らしを子どもたちはしており、衣服の裾がほつれたりボタンが取れたりなどのトラブルがあっても、それを修繕して着るのではなく、新しい製品を買う家庭も少なくはない。また、衣服の裾がほつれても、裾上げテープや裾直し用ボンドなどで簡単に修理でき、手縫いができなくても日常生活で困ることはほとんどない。

そうした家庭環境に育っている子どもたちに、物を大切にする気持ちや物への愛着を育てたい。新しい製品を次々に購入することが生活を豊かにすることではなく、資源は有限であり、物をより長く大切に、工夫して使うことが豊かな生活につながることを考えさせたい。

（3）指導観

子どもたちは、この題材で初めて針と糸を使って、手縫いによる縫い方やボタンの付け方等の基本的な技能を学ぶ。また、手縫いの仕方が分かり、それらを使った目的に応じた縫い方を理解するとともに、それらの作業に必要な用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできるようにすることをねらいとしている。

初めて裁縫用具を使うに当たって、用具の使い方や扱い方などの基本を丁寧に指導したい。手縫いをするためには、縫い針に糸を通したり、糸の端に玉結びや玉どめをしたり、布を合わせて縫ったりする必要がある。初めての裁縫で、縫い針に糸を通す段階でつまずく子どももいる。また、子どもたちにとって玉結びや玉どめは難しく、糸端に玉結びや玉どめをすることがうまくできない子どもも多い。そのため、この段階で手縫いに対する関心が薄れる子どももいる。手縫いの基本的な技能が確実に身につくように、各自のiPadで拡大見本や段階見本、動画などが見られるようにし、子どもたちが主体的に学ぶことができるようにしたい。子どもたちが目で見て分かる教材を用意し、繰り返し練習をさせたい。また、見本や動画で縫い方は分かっても、実際にボタン付けができない子どももいる。担任だけでは子どもの支援に限界があるため、保護者や地域の方にも学校に来ていただき、裁縫の先生として子どもたちの学習のサポートをお願いしたい。

本時では、ボタンの種類や役目が分かり、ボタンを付けることができることをねらいとして学習する。前時までに学習した玉結び、玉どめを使ってボタン付けができるようにしたい。また、家庭生活とつながるように、家庭からボタンの修繕が必要な服を持参させ、家族の役に立つ喜びを味わうことができるように支援していきたい。

3. 題材の目標

- ・手縫いによる目的に応じた縫い方やボタンの付け方について理解し、適切にできる。
- ・製作に必要な用具の安全な使い方が分かる。
- ・学んだ技能を生かし、生活を豊かにするために製作計画を考え、製作を工夫することができる。

4. 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・製作に必要な材料や手順について理解している。 ・手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いを理解しているとともに、適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手縫いの製作について課題を見付け、解決を目指して知識及び技能を活用し、生活を豊かにするために、製作計画を考え、製作を工夫することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・快適・安全などの視点から、手縫いの製作に関する知識及び技能を身に付けようとしている。 ・生活をよりよくしようと、生活を豊かにするために布を用いた製作について工夫し、実践しようとしている。

5. 指導計画（全 9 時間：本時 3／9 ）

	主な学習活動	評価の観点【】
つかむ・見通す	①なぜ縫うのだろう ○針と糸で縫うのとのりで付ける違いや扉の写真から気が付いたことを話し合っ課題を見付け、学習の見通しをもつ。	【主】 健康・快適・安全などの視点から、手縫いの製作に関する知識及び技能を身に付けようとしている。
やってみる	②どのような用具や方法で縫うのだろう ○針と糸を使って、玉結び、玉どめ、名前の縫いとりをする。 ○なみ縫い、返し縫い、かがり縫いをする。 ○ボタン付けをする。(本時) ③手縫いを生活に生かそう ○製作計画を作成して、手縫いでボタンの付いた小物を作る。 ・小物入れ ・ペンシルケース ・三角定規入れ など	【知・技】 製作に必要な材料や手順について理解している。 【知・技】 手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いを理解しているとともに、適切にできる。 【思・判・表】 手縫いの製作について課題を見付け、解決を目指して知識及び技能を活用し、生活を豊かにするために、製作計画を考え、製作を工夫することができる。
生かす	○これまでの学習を振り返り、製作したものを使用した感想や作ってみたいものについて話し合う。 ○話し合いをもとに学習したことを生活にどう生かすか考える。	【主】 生活をよりよくしようと、生活を豊かにするために布を用いた製作について工夫し、実践しようとしている。

6. 本時の目標

- ・ボタンの種類や役目が分かり、ボタンを付けることができる。

7. 本時の評価規準

- ・ボタンの種類や役目、付け方を理解している。【知識・技能】
- ・ボタンを付けることができる。【知識・技能】

8. 本時の展開

	学習内容（学習活動）	教師の指導・支援	評価規準・評価方法（☆）
つかむ・見通す	1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none">・事前に、ボタンの付いた服について家庭で調べておくようにさせる。・ボタンが取れかけているなど、ボタン付けが必要な家族の衣類を持ってくるように伝えておく。	
	ボタンの付け方を調べ、布にボタンを付けよう		
やってみる	<p>2 ボタンが付いている衣類を観察し、気づいたことをグループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none">・ボタンの種類：二つ穴ボタン・四つ穴ボタン・足つきボタン・ボタンの役目：布をとめる・飾り・ボタンの付け方：丈夫に・とめ外しやすい・きれいに・糸の色：ボタンと同じ色 <p>3 二つ穴ボタンの付け方を調べ、布にボタンを付ける。</p> <ul style="list-style-type: none">・二つ穴ボタンの付け方を確認する。・ボタンの色に合わせて、糸の色を決める。・二つ穴ボタンの付け方が分かったら、家から持ってきた家族の衣類のボタン付けをする。	<ul style="list-style-type: none">・ボタンには、表と裏があることを知らせる。・ボタンの種類や役目、付け方を調べさせ、ワークシートにまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none">・針の数を確認してから始めることを確認する。・拡大見本や段階見本、各自の iPad で縫い方の動画などが見られるようにし、二つ穴ボタンの付け方を確認できるようにする。・各テーブルに、二つ穴ボタンを付けた見本を用意し、ボタンを付けながら確認できるようにする。・友達同士で教え合ったり、やり方を見せてもらったり、保護者や地域の方	<p>【知・技】ボタンの種類や役目、付け方を理解している。（発表・ワークシート）</p> <p>【知・技】ボタンを付けることができる。（観察）</p>

	4 安全に気を付けて片付けをする。	に教えてもらうよう助言する。 ・家族の衣類のボタン付けをさせる。 ・裁縫用具チェックカードで針の本数等を確認できるようにする。	
生 か す	5 本時の学習の振り返りをし、次時の学習課題を知る。 ・気づいたことや感想をまとめる。	・本時の学習を振り返り、ボタン付けをした感想をワークシートに書くように伝える。 ・家庭でもボタン付けの実践をするように意識付けをする。 ・次時からは、小物づくりをすることを伝える。	

9. 資料など

■ 教材・準備物

<児童> ・裁縫セット、布、二つ穴ボタン

<教師> ・裁縫セット、布、様々なボタン・段階見本・二つ穴ボタンの付けかた動画・拡大写真

<参考文献>

- ・『わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂出版社 平成 27 年 2 月 5 日発行
- ・『わたしたちの家庭科 5・6 学習指導書上巻 指導展開編・実践事例編』開隆堂出版社⁹
- ・『小学校学習指導要領解説 家庭編』平成 29 年 7 月 文部科学省 東洋館出版社
- ・『小学校わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂出版 2020 年度用小学校家庭教科書 内容解説資料
- ・『新しい家庭 5・6』東京書籍 2020 年度用小学校家庭教科書 内容解説パンフレット

V. 考察

① 実践的・体験的な活動の充実

学習したことを実生活で活用できるようにするために、子どもたちにはワークシート等で家庭での実践を促してきた。しかし、子どもたちの家庭環境は様々であり、家庭での実践が難しい子どももいる。そのため、できる限り授業の中で家庭生活に配慮して、教材を準備したい。今回は、授業の中で、家から持ってきた家族の衣類のボタン付けを行った。子どもたちが着ている衣類にボタンが付いたものは少なく、子どもたちが持参できるのは、家族のワイシャツやブラウスになる。45 分間の授業時間内で練習用布にボタンを付け、家族の衣類のボタン付けまで行うことは時間的に厳しいが、家族の役に立つ喜びや、実生活への活用を体験することにつながる。学校での学びを家庭生活につなげるためにも、実生活でどのように実践するのかを具体的に学ぶことが大切である。

② 個に応じた指導の充実

「衣生活」分野の指導をしていて、手縫いを面倒に感じる子どもたちを多く見てきた。ボタン付けは、玉結びや玉どめができると、手順を知れば簡単にできる。前述の学生アンケートで、「ボタン付けが得意である」の質問に 15.6%の学生が「あてはまらない」と回答し、ボタンが取れたとき「ボタンが取れたままの服を着る」学生が 9.7%、「その服はもう着ない」という学生が 7.5%あり、学生はボタン付けの必要性を感じていなかった。布製品も安価で手軽に手に入る時代に、

手縫いをするを面倒に感じる子どもも少なくはない。そして、初めて裁縫セットを使った学習で、上手く玉結びや玉どめができず、ボタンが付けられないことへの苛立ちを感じる子どももいる。初めて手縫いを学習する、玉結びや玉どめで、すべての子どもたちにできた喜びを味わわせたい。そこで、玉結びや玉どめの仕方や縫い方が分からなくなったときには、拡大見本や段階見本で確認できるようにするなど、掲示物や資料をいつでも見られるコーナーを設置しておく。また、各自の iPad で縫い方の動画が見られるようにし、一人一人のつまずきに応じた指導を工夫したい。そして、グループで取り組むことにより、友達同士で教え合ったり、保護者や地域の方にスモールステップでやり方を教えてもらったりすることで、個に応じた指導の充実に努めたい。

③ 家庭・地域との連携

社会に開かれた教育課程を実践する上でも、家庭や地域との連携は欠かせない。とりわけ家庭科では、家庭と連携することで、学習の定着が期待できる。

従来から裁縫セットの購入時に、裁縫セットの見本を学校で展示して、保護者に見ていただく機会をもってきた。また、年度初めの学級懇談会や学年通信等で、家庭科の主な学習内容を保護者に伝えたり、ミシンを使う学習では授業への参加をお願いしたりするなど、協力をお願いしてきた。しかし、ボタンが取れたり取れかけたりした衣類を家庭科の学習で使うために取っておいてほしいことや、ボタン付けや手縫いの学習に保護者や地域の方を裁縫の先生として招聘し、指導協力をお願いすることまではできていなかった。保護者は、働いておられる方も多く、家庭科の授業のために何度も来校をお願いすることは難しい。今回、保護者だけでなく地域の民生委員さんにも授業への協力依頼をしたところ、快く引き受けていただいた。外部の方に授業への協力をお願いする際には、子どもたちの個人情報への配慮と保護者の理解を得ることが重要であり、誰にでも授業への協力をお願いすることはできない。しかし、学校の応援団として地域で子どもたちを見守っていただいている方の協力を得ることで、指導体制の充実に図ることができる。また、学校間の円滑な接続の観点からも、中学校の教員による授業への協力も有効であると考え。地域の中学校教員に子どもたちの状況を知ってもらう機会になるとともに、専門的な知識をもつ中学校家庭科の教員による授業は、子どもたちの家庭科への興味・関心を高めることにもつながる。

そして、「家庭科の学習のねらいや内容について、授業参観や学年便り、学級便り等を通して情報を提供するなど、家族が家庭科の学習の意義や内容を理解できるようにする。また、家庭での実践が計画されていることを事前に伝えたり、協力を依頼したりすることなども考えられる。そのことによって、家庭での実践への理解が深まり、児童が家庭の協力を得て、日常生活や長期休業中の家庭生活で充実した実践ができるようになる。」（小学校学習指導要領解説家庭編 p.81）ことを念頭において指導の充実に図りたい。

Ⅵ. おわりに

令和2年度から小学校学習指導要領が全面実施され、英語教育の充実やプログラミング教育が新たに入ってくる。平成30年11月に文部科学省が発行した『小学校プログラミング教育の手引（第二版）』には、小学校家庭科におけるプログラミング教育の事例として「B－③ 自動炊飯器に組み込まれているプログラムを考える活動を通して、炊飯について学習する場面（家庭第6学年）」¹⁰が掲載されており、小学校家庭科におけるプログラミング教育の実施に向けて、教材研究の時間が必要になる。授業時間数の増加とともに新たな教育への対応は、教員の多忙感をますます増大させることにつながる。

内閣府 HP には、「Society 5.0 で実現する社会は、IoT（Internet of Things）で全ての人とモノがつながり、様々な知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出すことで、これらの課題や困難を克服します。また、人工知能（AI）により、必要な情報が必要な時に提供されるようになり、ロボットや自動走行車などの技術で、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服されます。社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となります。」¹¹と、Society 5.0

の社会について述べている。Society 5.0 がめざすのは、人間中心の新しい社会だと言われているが、その新しい社会に生まれ育つ子どもたちに弊害はないのかを検証していくことも必要である。

家庭科は、家庭生活そのものを教材とした教科であり、人が生きる上で必要不可欠な衣食住について学ぶ。小学校家庭科の授業では、子どもたちの将来、子どもたちが生きていく社会をしっかりと見据え、小学校学習指導要領家庭科の目標に示された「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」が子どもたちに育つよう、授業改善をより一層進めるなど、教科指導力の育成に取り組みたい。

<引用：参考文献>

- 1 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」平成 28 年 12 月 21 日
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf
(2020 年 1 月 10 日確認)
- 2 文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 家庭編』平成 29 年 7 月
- 3 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会第 56 回配付資料「小学校における各教科等の授業時数等の変遷」
http://www.next.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/attach/1399513.htm (2020 年 1 月 10 日確認)
- 4 文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』平成 20 年 8 月
- 5 『わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂出版社 平成 27 年 2 月 5 日発行
- 6 『小学校わたしたちの家庭科 5・6』開隆堂出版 2020 年度用小学校家庭教科書 内容解説資料
https://www.kairyudo.co.jp/contents/01_sho/2020/katei/pdf/shoka_daizai.pdf (2020 年 1 月 10 日確認)
- 7 『新しい家庭 5・6』東京書籍 平成 31 年 2 月 10 日発行
- 8 『新しい家庭 5・6』東京書籍 2020 年度用小学校家庭教科書 内容解説パンフレット・
https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/katei/data/katei_m_pamphlet.pdf (2020 年 1 月 10 日確認)
- 9 『わたしたちの家庭科 5・6 学習指導書上巻 指導展開編・実践事例編』開隆堂出版社
- 10 文部科学省『小学校プログラミング教育の手引（第二版）』平成 30 年 11 月
- 11 内閣府 HP「Society 5.0」 https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html (2020 年 1 月 10 日確認)

伊藤 孝子 子ども学科講師・教科教育学